

大阪のメインストリート 昔は堺筋

昨年のはごろは、連日のように大阪市廃止・特別区設置の是非を問う住民投票に向け活動し、レポートを書いていた。写真は大阪のメインストリート・御堂筋を大勢の市民が「10・10サイレントパレード」したときだ。

大阪市役所前の中之島に集合して、淀屋橋から本町、心齋橋、難波へと長い列が続いた。私も参加したが、腰痛の具合が悪く、ベンチなどに腰かけ休憩して、なんとか解散地点にたどりついた。



この御堂筋は何度も難波―梅田間を歩いたことがある。となりの堺筋はあまり馴染みがない。日本経済新聞10月5日夕刊の表題記事に目がとまったので抜粋して紹介する。

堺筋は天神橋（大阪市北区）から天下茶屋（同西成区）につながる幹線道路。江戸時代には船場―堺間を結ぶ紀州街道の一部として参勤交代の大名行列が通ったという。約6mの道幅しかなかった堺筋は段階的に拡張された。

起点となる天神橋1交差点から南に進むと、目に入るの南北四隅に4体のライオンの石像がある難波橋だ。「ライオン橋」の愛称で親しまれている。1912年、北浜―日本橋間が拡張された堺筋には大阪市電堺筋線が通るようになった。当時は堺筋には大川を渡る橋がなく、北側の天満方面へ市電を通すことが課題だった。一筋西にある旧来の難波橋の上を通す案が浮上したが、住民の反対運動で変更され、堺筋の延長線上に新しい難波橋がかけられた。



難波橋の特徴はその美観だ。パリのセーヌ川にかかるポンヌフ橋を参考に造られたともいわれる。市電の開通に加え、市民が集う行楽地としても人気を博し、難波橋は堺筋がメインストリートだったことを物語る。

堺筋には百貨店が立ち並んでいた。17年には北浜に三越、21年には備後町に白木屋が開店。翌年には当時心齋橋に店を構えていた高島屋が長堀橋に移転した。高島屋史料館の高井多佳子学芸員は「最もにぎわいのある場所に店を構えるのが百貨店のステータス。当時、堺筋の右に出る通りはなかった」と話す。日本橋に松坂屋も開店し、「百貨店通り」が誕生した。栄華を誇った堺筋だったが、37年に梅田―難波間に市営地下鉄御堂筋線が整備されると、百貨店を含む多くの企業は御堂筋へと移転し、メインストリートの地位も奪われた。

(2021年10月11日)